

校内研修計画

甲州市立松里小学校

1. 学校課題

本校では昨年度までの3年間、子どもたちが算数科において、課題を理解し、自分の考えをもって「学びをつくる」ことをめざした研究を行ってきた。どの学年でも考える過程を大切に、それを友だちに伝え合う活動を通して、いきいきと学びをつくる子どもたちを育成することができたのではないかと考える。

本年度は新指導要領に基づき、教科としての道徳科が完全実施となった。論点整理では「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」の根幹となるものであると明記されており、自ら周りに関わろうとする力が必要であることが示されている。

本校は全校児童107人の小規模校である。各学年6~21人と、1クラスの人数も少ない。人間関係も固定されがちで、その関係が大きく変化するようなことも見られない。もっと友だちの良さを認めたり、ちがう角度から見つめたりする中で、よりよい人間関係を築き、小さな集団の中だけでなく、広い社会へと出たときにも、人とつながろうとする気持ちを育みたいと考えている。

そこで、本校では道徳教育に「認め合い」「助け合い」「つながり」をキーワードとした重点目標を設定した。昨年度からの2年間、青少年赤十字の研究指定を受けていることもあり、その理念である「助け合い」「相互理解」も念頭に置いた目標設定となっている。学校の教育活動すべてで行われる道徳教育はもとより、その要とされる道徳科について教師が学び、「考え、議論する道徳」を実践しながら、本校が目指す児童の育成を行っていききたい。

2. 研究主題

互いに認めあい、助けあい、自ら進んで人とつながる心を育むための道徳授業のあり方
～ 「特別の教科 道徳」の授業実践を通して ～

3. 主題設定の理由

平成29年3月31日告示の新学習指導要領に基づき、今年度より「特別の教科道徳」が完全実施となった。指導要領では、「道徳教育は教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自律した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする」と定めた。道徳教育・道徳科で目指す資質・能力ともいえる「よりよく生きる基盤となる道徳性」は、道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度に下支えされたものであり、これらを育むために「自己を見つめる」「物事を多面的・多角的にとらえる」「自己の生き方についての考えを深める」といった活動を、道徳科の中で意図的に仕組んでいくことが重要ではないかと考えている。

また、山梨県の「新やまなしの教育振興プラン」においても、「未来を拓く「やまなし」人づくり」の基本理念の基、基本目標の一つとして、「他者を思いやり、社会の絆を深める「しなやかな心」を育む」ことを挙げている。「しなやかな心」とは、「自他を敬愛する心・粘り強く最後まで諦めない心」とされており、他者との「協働」により、社会全体の絆を図ることを目指している。

さらに、甲州市で取り組んでいる「確かな学力育成プロジェクト」からも、学級づくり、言い換えれば、学級内の人間関係づくりが学力にも大きな影響を与えるとされている。自分の居場所があり安心して学べる子ども、子ども同士のリレーションが高く、友だちとのつながりをもちながら学習することのできる子どもたちは、意欲をもって主体的に学びに向かうことができる。これは「アクティブラーニング＝主体的で対話的な深い学び」とも大きく関わる部分であると考えられる。

これらのことから、本校の道徳教育の目標を『互いに認め合い、助け合い、自ら進んで人とつながる心を育む』とし、自他を認め、人とのつながりを大切にする児童の育成を目指していききたい。学校生活にも学習にも、周りの人々と協働し、主体的に関わろうとする気持ちや態度を育成することが、これからの子どもたちがよりよく生きるために必要な資質・能力だと捉え、本校の道徳教育の重点目標を設定する。

4. 松里小学校の道徳教育の重点目標

『互いに認め合い、助け合い、自ら進んで人とつながる心を育む』

5. 松里小学校の重点内容項目

『B 主として人との関わりに関すること』

・親切、思いやり ・相互理解・寛容

『C 主として集団や社会との関わりに関すること』

- ・ 勤労、公共の精神
- ・ よりよい学校生活、集団生活の充実

6. 研究の具体的内容と方法

(1) 具体的な研究内容

道徳教育に関わって

○道徳科の授業実践と授業研究（公開授業研究）

- ・ 「気づき 考え 実行する」（青少年赤十字態度目標）を生かした授業の工夫
- ・ 「考え、議論する道徳」を生かした授業の工夫
- ※自分との関わりで道徳的価値を考え、それを話し合う中で様々な考え方、感じ方を深める授業

甲州市「確かな学力育成プロジェクト」に関わって

○確かな学力を育成するための取り組みの継続

- ・ Q-U 検査と K-13 法の実施
- ・ 朝学習・家庭学習への取り組み
- ・ 授業の構造化と授業改善

(2) 研究の方法

- 道徳教育・道徳科の目指す児童の姿についての研修（指導主事を招いての理論研修）
- 児童が青少年赤十字の理念を学ぶ授業 ○公開授業研究 ○一人一実践 ○道徳の年間計画・別葉の見直し

年間校内研修計画

研究主任 岩下 和子

テーマ	教科領域	内 容	担当者	学年	授業の時期	T・C 要請	
互いに認めあい、助けあい、自ら進んで人とつながる心を育むための道徳授業のあり方	道徳	研究主題・重点目標・内容と方法・研究計画の提案・決定	研究主任				
		道徳教育・道徳科に関する学習会 講師：小尾指導主事	研究主任			○	
		全体の研究内容・計画・部会の研究計画	研究主任				
		Q-Uの分析とK13法の実施	部会				
		P①学級づくり学習会 鹿島先生	学カプロ				
		P②授業づくり学習会 内藤先生	学カプロ				
		部会の研究内容・道徳の授業実践について	部会				
		公開研究授業指導案検討（部）	部会				
		公開研究会の全体計画・公開研究授業指導案検討（全）	研究主任				
		公開研究授業指導案検討（部）	部会				
		公開研究授業指導案検討（部）	部会				
		P③小学校授業研究会 盛山先生	学カプロ				
		公開研究会について・公開研究授業指導案検討（全）	研究主任				
		公開研究会について・公開研究授業指導案検討（全）	研究主任				
		公開研究授業指導案検討（部）	部会				
		公開研究会について・公開研究授業指導案検討（全）	研究主任				
		青少年赤十字研究公開研究会	赤十字主任	3・5	11/19	○	
		公開研究会反省	研究主任				
		P④教育講演会 河村先生	学カプロ				
		部会ごとのまとめ	部会				
P⑤学級づくり学習会 木村先生	学カプロ						
今年度の総括	研究主任						
今年度のまとめ・来年度に向けて	研究主任						
研究紀要作成	研究主任						

